

だうん とぴっくす

身近な町の話や
出来事をご紹介します



夜空に浮かび上がる三の丸

整備が進む月山富田城跡の三の丸の石垣が、期間限定でライトアップされました。これまで、広瀬町側の石垣は樹木に覆われ、麓からは確認することができませんでした。昨年12月からの整備工事により、その姿が出現。今回、桜まつりの期間に併せて整備工事の施工業者の好意によりライトアップされることになりました。

夜桜の上に浮かぶ山頂の石垣。昼間以上に山頂部が高く感じられ、難攻不落の山城であったことを感じることができました。戦国時代にはかがり火で、同じように夜空に浮かび上がっていたのかもしれない。



▲三日月公園にある尼子経久公像越しの三の丸

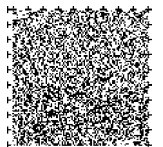


▲会場では来場者が思い思いの場所でシャッターを切っていました。

満開の中でのチューリップ祭

県内一のチューリップ畑が広がる母里地区で、4月10日、28回目の「はくたチューリップ祭」が開催されました。今年の祭りは、チューリップの花がちょうど見頃。会場となった伯太庁舎周辺には、多くの家族連れや写真愛好家の皆さんが訪れていました。

また、チューリップ畑では、人前式による3組のチューリップウェディングも開催。式を挙げたカップルは、色鮮やかなチューリップに囲まれて、来場者の皆さんから大きな祝福を受けていました。





町並み彩る“ひな飾り”

安来の春の風物詩「やすぎのひなめぐり」が4月1日～3日の3日間、広瀬、母里、布部地区で開催されました。

三地区では、民家の玄関や縁側、店先などにそのご家庭に縁のあるひな人形が飾られ、町並みを華やかに彩りました。ひなは大正時代に作られた古いものや、親子三代のもの、平面の人形型に彩色し衣装を張りつけたものなど多種多様。訪れた人は町並みを巡り、ひなのあでやかな着物や異なる表情を楽しみました。

広瀬でひなを鑑賞した清水暢子さん（米子市）は「毎年、気に入ったひなに会うのが楽しみ。今年も会えてよかった」とうれしそうに話していました。



▲ひなを鑑賞する来場者。
▶布部地区で行われたこどもみこし。



山佐地区の取り組み県表彰

地域住民による自主的な地域づくり活動を積極的に行っている団体・個人を島根県が表彰する「郷づくり活動表彰」に山佐地区が選ばれました。

山間部に位置する山佐地区は、将来も地域を維持していくため、平成23年から上山佐地区中山間地域コミュニティ再生会議を立ち上げ、地区住民が一体となった取り組みを進めています。県や市から財政支援を受けずに事業を展開し、住民をモデルにしたカレンダー、地区の名所巡り、地域ビジョン策定、地域をPRするイベントなど多彩な活動を展開し、住民同士の絆を強め、地域の未来に向けてまい進しています。

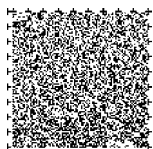
同会議の加藤会長は、「何のためにするのかということを中心に活動してきた。今後も継続していきたい」と決意を語りました。



▲3月28日、加藤英俊会長（左）が近藤市長を訪れ、受賞を報告しました。

あんなこと、こんなこと
地域の話題をお届けします。
皆さまからの情報も、
お待ちしております。

秘書課 TEL 23-3010



県内屈指の能義第二ほ場完成



▲のきの郷に建てられた記念碑の除幕をする溝口知事と近藤市長ら。

島根県が平成20年度から進めていた能義第二地区農地整備事業が完了し3月24日、農事組合法人のきの郷で竣工式などが行われました。

このほ場整備は、安来平野のほぼ中央部に位置する赤崎町、飯生町、利弘町地内にまたがる168 ㌶の大区画地。平成16年に地元関係者が能義第二地区基盤整備推進協議会（仲井邦義会長）を立ち上げ、整備への検討を開始。平成25年度には農事組合法人を設立し、安定し多角的に農業経営を行う営農基盤を推進しています。

また、地下水を自動制御する新たな地下かんがい方式（フォアシステム）を県内で初採用。生産コストを大幅に削減する効果があるなど、水田農業のモデル地区となっています。

全国年賀状コンクールで入賞

日本郵便株式会社が年賀状作成を通じて「手紙の良さ」に改めて気付いてもらうことを目的に行っている全日本年賀状大賞コンクールで、安来市の3人が入賞しました。

13回目となる今回のコンクールは、版画・絵手紙・ことば部門があり、全国から応募があった約12万3千点からの入賞となりました。3月22日に安来郵便局で角森玲子さん（宮内町）の表彰式があり、藤江弘徳局長が賞状を手渡しました。角森さんは第3回コンクールから毎年応募しており、4回目の入賞。「手書きの手紙は自分の世界観が広がり、自分発見につながる。子どもたちに手書きの手紙の良さを知ってもらい、手紙を書く機会が増えればうれしい」と話しました。



▲表彰式の様子。角森玲子さん（前列右）と藤江局長（同左）。
※安来市の入賞者 版画部門・吉原叶さん（比田小）、古澤光芽さん（比田小）



▲平成27年度の8020達成者の皆さん。
記念撮影の後の歯科衛生士による講演では、自分の歯でなくても、義歯などで歯を保持し、よく噛むことができるようにすることが大切との話がありました。

8020達成 市内で74人

安来市では、80歳で自分の歯を20本以上保持している市民を「8020（ハチマルニイマル）達成者」として毎年表彰しています。

平成27年度の表彰式を3月23日に安来中央交流センターで開催し、28人の出席者に、表彰状と記念品を贈りました。日野仁司さん（宮内町）は、「定期的に歯科医院で歯石を取ってもらっている。家でも歯周病にならないようにうがい薬でうがいするなど気を付けている」と話しました。

